

# ウトナイ湖通信



No.236

2024年1月号



本年もウトナイ湖野生鳥獣保護センターをよろしくお願いします。ウトナイ湖の上空では、優雅に飛ぶオオワシやオジロワシが期待されます。ワシ類の勇姿には、寒さを忘れてしまうほどの感動を覚えます。

ウトナイ湖は、周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。

## 1月のイベント情報

### お気軽ガイドウォークinウトナイ湖

1月14日(日) 10:30~11:30

レンジャーや当センターのボランティアが40分程、屋外でウトナイ湖の自然を案内するガイドウォークです。荒天時は館内ガイドウォークに変更します。

定員: 10名程度

対象: どなたでも  
(小学生以下保護者同伴)

申込: 不要

### 毛糸のポンポンで野鳥を作ろう

～オジロワシ編～ 1/20(土) 11:00～

定員: 事前申込先着 4組(1組1作品まで)

対象: どなたでも(小学生以下保護者同伴)

申込: 1/6～1/19の開館時間に  
電話で当センターへ

### アイロンビーズで野鳥を作ろう

～シマエナガ編～

1/27(土) 11:00～、14:00～

定員: 事前申込先着 4組(1組2作品まで)

対象: どなたでも(小学生以下保護者同伴)

申込: 1/13～1/26の  
開館時間に電話で当センターへ

### ラムサール条約・世界湿地の日記念 冬のウトナイ湖を観察しよう♪

2/3(土)13:00～14:30

雪、湿地、野鳥観察を楽しみましょう。

主催: 環境省・苫小牧市

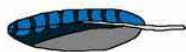
協力: 日本野鳥の会

定員: 申込先着 15名程度

対象: 小学生以下保護者同伴

申込: 1/13～1/31まで、電話  
で当センターへ

## 市民ギャラリー 傷病鳥獣救護展



開催中(2024年2月4日まで)

この1年間で保護された傷病鳥獣の一部をパネルで紹介しています。

またこれに合わせて、クイズラリーも開催しています。参加賞もあります♪

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆ TEL.0144-58-2231

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 / 道の駅となり

開館時間: 午前9時～午後5時 / 入館無料

休館日: 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

ラムートくん



～ウトナイ湖～

・国指定鳥獣保護区特別保護地区  
・ラムサール条約湿地  
・東アジア・オーストラリア地域  
フライウェイ・パートナーシップ

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 検索



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をご紹介します。

## シメ

### 原因：衝突疑い



診察時の様子



ケージ内の様子

12月 6日 市内の住宅地内で飛べずにいたところを発見され、同日中に保護センターへ搬送される。



初診では、右眼周囲に出血跡が認められたが、翼や足などには異常は認められなかった。外傷の様子から、人工物等への衝突事故が疑われた。

12月 10日 その後、経過は良好で、容体安定、体重増加、飛翔にも問題なく、保護から4日後、リリースに至る。

### シメ（スズメ目 アトリ科）

全長19cm。ずんぐりとした体型と、太いくちばし、短い尾が特徴的です。一般的には夏鳥として渡来しますが、一部越冬するといわれています。平地から低山の森林に生息し、くちばしで木の種子を割って食べるほか、繁殖期には昆虫も捕食します。

## トピックス



### 傷病鳥獣救護施設バックヤードツアー

一般公開していない傷病鳥獣救護施設をご案内するツアーを開催し、当センターの獣医師が收容されている野生鳥獣をお見せしながら怪我の原因などをご説明しました。また、トラフズクやオオコノハズクの保定(治療時に動かないようにすること)する様子も皆さんにご覧いただきました。



### ボランティア体験講座「水鳥カウント調査」

当センターのボランティア活動を一般の方に知っていただく本講座。今回は活動のひとつ、水鳥カウント調査を一般の方に体験いただきました。レンジャーやガイドボランティアの説明のもと、オジロワシやオオハクチョウ等を探し、記録用紙に種名、数、時間などを記録していただきました。



## ボランティアコーナー

当センターのイベントや調査活動に積極的に参加され、ご自身でも自然観察を楽しまれている杉山さんにインタビューしました

当センターのボランティアに登録しようと思ったきっかけを教えてください。【自然を通して】杉山 知永 氏

ラムサール条約湿地に登録されているウトナイ湖や、そこに来る渡り鳥のことなどを学びたいと思ったこと、ボランティア活動で少しでも環境保護のお手伝いが出来ればと思い登録しました。

当センターのボランティア活動に参加して、良かったことはありますか？

一人で歩いて観察するだけでは気付くことができない植物や野鳥の名前・生態を詳しく教えていただけることです。

野鳥や自然観察の楽しさや魅力があれば教えてください。

四季折々の植物を楽しめること、飛来する渡り鳥を見て季節を感じられることです。また、いつも同じ場所に出向いてもお目当ての野鳥に出会えない自然の難しさも併せて感じています。



イベントで受付をする杉山氏

## ウトナイ湖 お楽しみコーナー

## 【ウトナイ湖・クイズ】

冬のウトナイ湖では、鮮やかな生殖羽のカモたちを観察することができます。カモ類は、水中に潜って餌を採ることが多い『潜水採餌ガモ』と、くちばしを水面につけて水面に浮いた種子などを食べる『水面採餌ガモ』の2グループに分けることができます。

次のカモ類のうち、『潜水採餌ガモ』はどれでしょうか。答えはひとつとは限りません。体のかたちに注目して選んでみましょう。

【A. ヒドリガモ】



【B. ホシハジロ】



【C. カワアイサ】



【D. ヨシガモ】



正解は、最後のページにあります。

公式 SNS には、ほかにもたくさん情報を載せています！



Instagram



facebook



X(旧 Twitter)



# レンジャーのおすすめ自然情報



【オジロワシ】

全長約 83-92 cm、翼を広げると 199-228cm で、ウトナイ湖では通年見られる。冬期は凍った湖上に佇む姿が見られることも。



【カケス(亜種ミヤマカケス)】

全長約 33cm。色鮮やかなカラスの仲間。貯食の習性があり、地中に埋めたドングリなどの食べ物を探す姿が見られることもある。



【ミソサザイ】

全長約 11cm。茂みや木道の下に隠れていることが多いが、「チャッ、チャッ」という声でその存在に気がつくことが多い。



【キバシリ】

全長約 14cm。木の幹をらせん状に回りながら上ってエサを探す。ウトナイ湖では周年見られる鳥だが、冬は見つけやすい。

林の木々の葉も落ち、野鳥を観察しやすい時期になりました。雪の上には動物たちの足あとが残り、生き物たちを身近に感じられることも多い季節ですね。厳冬期はウトナイ湖が結氷(氷が張ること)し、氷の上にはオオワシやオジロワシ、キタキツネなどが姿を現すこともあります。寒い時期にしか見られないウトナイ湖の様子をぜひ楽しんで下さい。

体が冷えないように散策される際は、暖かい服装でお越し下さいね。



## ウトナイ湖で自然観察を楽しもう♪

最新自然情報や、自然観察路マップはこちらから



Instagram



facebook



X(旧 Twitter)

### 自然観察路ガイドマップ【冬】



**冬のお薦めポイント**  
湖の大部分が結氷します。氷の上にオジロワシやオオワシの姿が見られます。林の中では、留鳥のハシブトガラなどのカラ類やエナガ・キバシリなどの混群が見られます。木々の葉が落ちていたので、小鳥たちを観察しやすい季節です。